

第18回

島根大学医学部附属病院関連病院長会議を開催

総務課

11月25日(木)18時から島根大学医学部臨床講義棟2階臨床大講堂において「第18回島根大学医学部附属病院関連病院長会議」を開催しました。

この会議は、当院への患者紹介や当院からの医師の派遣等を通して関係の深い病院・診療所との意思疎通を図ること、また地域医療に貢献することを目的として設置され、毎年1回開催しており、今年で18回目を数えます。今回は初めて大学の臨床大講堂において実施し、新型コロナウイルス感染症拡大防止として、席を離し、密集を防ぐ形で行いました。会議には、島根県内56関連病院の病院長等と、椎名病院長を始めとする当院関係者50名が出席しました。

冒頭で椎名病院長から挨拶があった後、先進的な医療技術の地域への還元として、糖尿病に関する取り組み、総合周産期母子医療センター、消化器内科の取り組み、最先端外科としての呼吸器外科の取り組み、ロボット支援手術推進センターの役割及び腎移植センターの再開、高度脳卒中センターとSCUの構築、最先端の再生医療センター、小児心臓血管外科の取り組みについて説明しました。その後、医療安全に関連する取り組みとして、RRT・CCOT及び手術支援センターの取り組み、地域貢献として、卒後臨床研修センター及び総合診療医センター、新型コロナウイルス感染症対策における災害医療・危機管理からの取り組み、医師派遣に関することについて、説明しました。

最後に椎名病院長より、関連病院の皆様のご意見を取り入れ、当院の理念である地域医療と先進医療が調和する大学病院としての役割を十分認識し、日々改善に努める旨をお伝えし閉会しました。



島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

2022年1月15日～2月14日 対象者： 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
1/23(日) 13:00～14:30	ダウン症の方とご家族のためのお話し会 Vol.1	Zoomによる オンライン配信	一般 医療 本学	島根大学医学部附属病院 臨床遺伝診療部
詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。				

Vol.99
2022 01
島根大学
附属病院
ニュース

2022年1月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

Shimane University Hospital
島大病院ニュース

2022年

1月
Vol.99

NEWS



CONTENTS

・年頭のごあいさつ 2022

・新型コロナウイルス感染症対策の今後

・第18回 島根大学医学部附属病院
関連病院長会議を開催

・研修会・講演会・セミナー開催情報



年頭のごあいさつ 2022

病院長 しいな ひろあき
椎名 浩昭

あけましておめでとうございます。

昨年4月1日に病院長を拝命いたしました病院長の椎名です。昨年は未曾有の新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、「壁を取り、機能強化を実行する」ことを目標に島根大学病院の運営を行ってまいりました。職員の皆様方や地域の先生方をはじめ、多くの方々にご支援いただきましたこと、深く感謝申し上げます。

病院の機能強化には、全病院職員の総力が必要です。単独の診療科で困難な症例は他診療科との協力・連携で診療すればより安全で完成度の高い医療が提供できます。当院では診療支援部門の解体的見直しやBCP（事業継続計画）の作成など、院内で柔軟な連携体制を基に病院機能強化を行っています。災害医療・危機管理に関する部門を設置し、新型コロナ感染症では島根県全域を俯瞰して最善の医療支援を提供できる体制も整備しました。地域医療に関しても、近隣の医療機関と連携しやすい医療体制を構築し、より充実した病診連携・病病連携を実践しているところであります。診療技術面では、低侵襲なロボット手術は泌尿器科以外にも消化器外科、婦人科、呼吸器外科への適応拡大を行い、脳卒中ケアユニットによる脳卒中の集学的治療を開始し、血液悪性腫瘍に対する最先端の「CAR-T療法」、整形外科の「骨ネジ」を用いた再生医療、あるいは病態生化学の新型コロナウイルスに対する創薬開発など、基礎医学との橋渡し研究にも力を入れています。

本年は、これらの医療体制をさらに充実化するとともに、移植医療にも力を入れ、地域で完結できる安心・安全かつ高度な医療の実践を行います。医事業務の効率化と患者さんの利便性向上を図るため、人工知能（AI）を用いた新たな試みも行います。また入院患者の敷地外訓練を行い高次脳機能障害患者に対する自動車運転再開に向けた支援も充実化いたします。他方、職員が安心して働ける環境づくり、病院づくりが病院の機能強化には必須と考えています。職員の満足度が低い環境では、決して患者さんに満足のいく医療サービスを提供できないからです。当院に求められる医療の本質は、「患者さんを幸せにする」ことです。その手段としての「安全・安心な最善の医療」を病院の総力として提供しつつ、地域に根ざす大学病院の在り方を真摯に考え実践してまいります。職員一人ひとりのモチベーションを大切に、一步一步着実に本質に向かって邁進するように努めてまいります。

本年もよろしくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

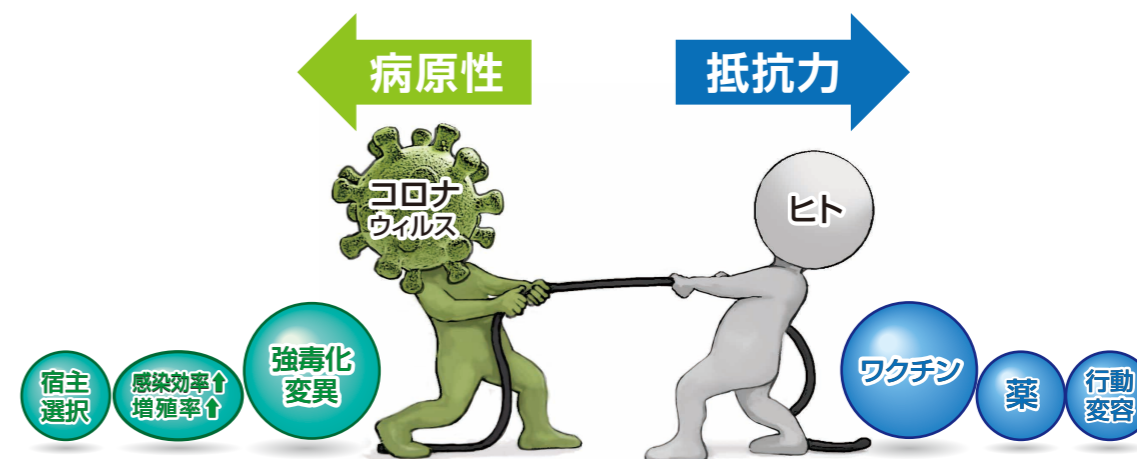
新型コロナウイルス感染症対策の今後

感染制御部 ICTリーダー さの ちあき
佐野 千晶

この原稿を書かせて頂いている2021年12月は、南アフリカでの第1報があった新規変異株のオミクロン株のニュースでもちきりです。オミクロン株はデルタ株よりも感染効率・実効再生産数はデルタ株の4.2倍と高いが、病原性は低いとされています。また、オミクロン株に対するワクチンの効果はデルタ株よりも下がりますが、重症化予防としては依然として高い効果を示しています。

新型コロナウイルス感染症がひどくなってしまいかどうかは、イラストのようなウイルスの病原性と宿主の抵抗力の綱引きですので、ワクチンの上手な利用がキーポイントになってきそうです。しかし一方でワクチン接種が多勢に行き届いたとしても、新型コロナウイルス感染症流行は完全に抑え込むことは不可能であることが数理的に実証されており、今後は季節性インフルエンザのようなやり方で上手にお付き合いしていく必要がありそうです。この上手な新型コロナウイルスとのお付き合いを考えると、おそらく新規の入院患者数が通常の医療を圧迫しない程度の流行については許容していく方向性に世界中がギャッチアップしていくと推察します。変異やサーベイランス情報で自分のいるコミュニティの流行予測をキャッチアップする必要性がでてきます。個人の対策としては、自分自身の感染リスク・重症化リスクを冷静に判断して、人がいるところでのマスク、3密の回避は常に念頭に置く必要があると考えます。

病院、そして地域を感染症から守るために、微力ではありますが皆様とともに力を尽くしてまいりたいと思いますので、感染対策への御協力御理解の程、何卒よろしくお願い申し上げます。（12月13日時点での内容です。）





周術期の安全と質の向上のために

もとおか あきひろ
麻酔科 外来医長 本岡 明浩

麻酔科医の責務は手術の安全を担うことです。100歳以上の割合が9年連続全国1位の島根県では、手術患者の年齢層も年々上昇し、心臓や呼吸器などに併存疾患を抱える方の手術も増えています。

安全な手術のためには手術前の全身評価が必要です。麻酔科外来では手術部看護師とともにリスク評価やオリエンテーションなどを行い、患者さんとそのご家族が安心・納得して手術に臨んでもらえるよう支援しています。

しかし、全身状態の悪い患者さんや侵襲の大きな手術の場合、様々なリスクに対応する必要があり、麻酔科医だけの力には限界があります。そこで、当院では2014年から「周術期管理チーム」を立ち上げ、リスクの高い患者さんを対象に、様々な専門家が連携する取り組みを始めました。手術前の栄養状態を改善し、身体機能の向上を図ることで周術期の合併症軽減を目指しています。早期回復を目指し、手術のあともサポートを継続します。少しでも早く「元の生活に戻る」ことがチームの大切な目標だからです。

患者さんが抱える問題は身体的なことだけではなくありません。心のケアや社会的なサポートなど多岐にわたります。様々な課題に直面しながら、その課題を解決するべくメンバーを募り、麻酔科医、外科医、リハビリテーション科医、療法士、精神科医、内分泌内科医、歯科医師、歯科衛生士、看護師、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーなど徐々にチームのメンバー、職種も増えていきました。

「周術期管理チーム」がサポートできる人数はまだ限られていますが、徐々に活動の輪を広げ、周術期の安全に貢献するべく努力を続けています。

問合せ先 麻酔科医局 TEL: 0853-20-2295



チームメンバーの患者さんへの思いが詰まっています



患者さんがチームの主役です



免疫学講座トピックス

全てのがん治療の効果には患者自身の免疫力が関係する

免疫学講座 教授 はらだ まもる
原田 守

新型コロナウイルス感染が蔓延し、日常生活が一変しました。普段の生活の維持に免疫力がどれだけ重要かを再認識させてくれました。一方、2人に1人ががんになる時代です。がんは遺伝子異常の蓄積が原因なので加齢で増加しますが、健康で長寿を全うできる高齢者もいます。その違いは何でしょうか。少なくとも、免疫力が維持できていれば、がんや感染症で命を落とすリスクはある程度抑えることができます。2018年、がんに対する免疫療法に関する開発で本庶佑博士がノーベル生理学・医学賞を受賞されました。本庶博士らが開発した免疫チェックポイント阻害療法は、がん患者に前もって誘導されていたがんに対する免疫力を再び活性化させる治療です。この治療法は、患者自身に前もって抗がん免疫力が誘導されていることが前提となっています。そして図1に示すように、免疫療法は第4の治療法として広く認知されましたが、重要なことは、患者自身の免疫力が他のがん治療法の効果を下支えしていることです。そして、図2に示すように、免疫力が低下した患者でも抗がん剤の治療効果は認められますが、免疫力が維持されている患者では、抗がん剤の治療後に患者自身の抗がん免疫力が二次的に誘導されて、さらに大きな抗がん効果が誘導される可能性があります。現在、図3に示すように併用効果を期待して、がん免疫療法と他のがん治療との複合的がん治療が世界中で実施されています。免疫学講座ではこれらの機序を明らかにする研究に取り組んでいます。

図1

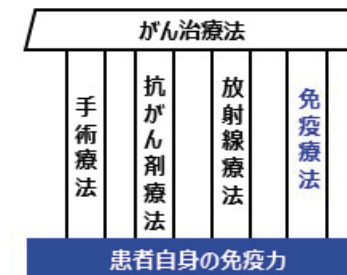


図2

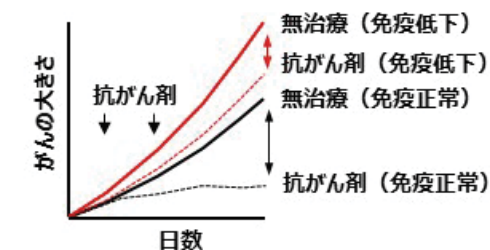
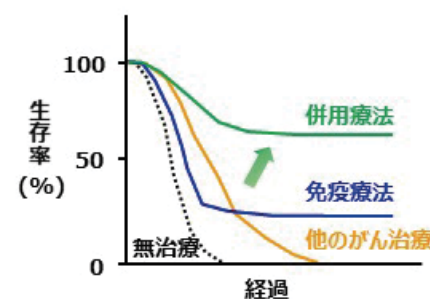


図3



問合せ先 免疫学講座 TEL: 0853-20-2150





ご報告



ご報告

患者満足は、職員の満足を高めることから ～働きやすい職場づくりをめざして～

看護部長 たなか まなみ
田中 真美

当院看護部では、「患者満足は、職員の満足を高めることから」を念頭に職場の活性化を図り働きやすい職場づくりをめざし「フィッシュ!哲学」を導入しています。

フィッシュ!哲学とは、アメリカ西部シアトルの魚市場から生まれた組織を活性化するためのマネジメント手法です。①遊ぶ②人を喜ばせる③注意を向ける④態度を選ぶという4つの原則からなり、遊び心と思いやりのある前向きな姿勢がより多くのエネルギー、生産性と創造性を生み出し職場環境を変えることができるといわれています。この手法を今年度、看護師長グループ会を中心に各部署スタッフと協働して取り組むことにしました。一例として、お互いに気持ちよい対応が行えるように「今日の態度はどっち?」の笑顔マークと怒りマークをナースステーションの鏡に置き、自分の表情を確認し笑顔をとりもどす、部署内で相手のいいところメッセージや自身でいつも心がけていることの掲示、GoodJobを言葉で伝える等、お互いを認め合い、楽しくやりがいにつながることを共有する場を設ける等、相手に心を配り自分たちがその職場で働きやすいと感じることができるよう取り組みを行っています。

日々の看護にフィッシュ!哲学を取り入れたことで、自身の仕事に向かう姿勢の内省や相手への気遣いについて実践する機会を与えてくれています。そして、コロナ禍で疲弊している状況下に元気をとりもどし、楽しく看護を提供することで、職場を活性化させ、スタッフがいきいきと働ける組織を創っていくことで患者満足の向上にもつながっていくと考えています。引き続き働きやすい職場づくりをめざしてスタッフと協働して活動していきますので、今後ともご指導をよろしくお願いいたします。

クリスマスイルミネーション点灯式を行いました

総務課

当院では、入院中の患者さんに寒い冬の夜を少しでも楽しく温かい気持ちで過ごしていただけるように、毎年、冬の到来とともに庭園をイルミネーションで飾ります。

12月2日(木)、雨風で天気の崩れがちな日も多い中、当日は冬晴れとなり、穏やかにクリスマスイルミネーション点灯式を行うことができました。

最初に椎名サンタ(病院長)から挨拶があった後、小児患者さんとうさぎ保育所の子どもたち全員で大きな声でカウントダウンし、「点灯!」の掛け声と同時にイルミネーションが光り輝きました。「わぁー」という歓声が湧き上がり、子どもたちは光の美しさに目を輝かせていました。

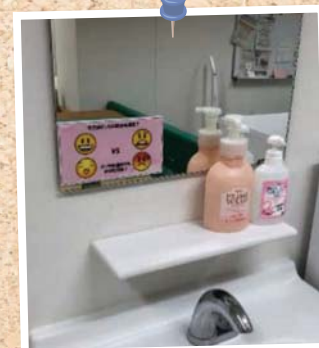
そして、みんなでイルミネーションを見ながら、うさぎ保育所の子どもたちが「赤鼻のトナカイ」「サンタが街にやってくる」を元気いっぱい歌ってくれました。

次に、看護師さん達のハンドベルチームによるクリスマスソングが披露され、澄んだ音色にみんなが耳を傾けました。

終わりに、椎名サンタ(病院長)と田中サンタ(看護部長)の二人から子どもたちにプレゼントが手渡され、みんな大喜びで受け取っていました。

庭園のイルミネーションは毎年行っております。今年もご期待ください。

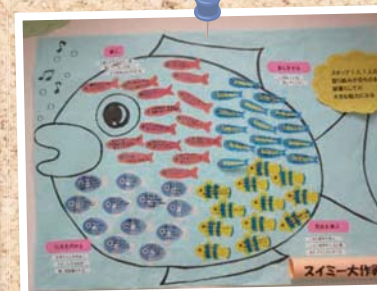
問合せ先 総務課 TEL : 0853-20-2015



今日の態度はどっち?
鏡を見てにっこり!



ハロウィーンです。
エネルギー補給にお菓子をどうぞ!



フィッシュの4つのマインド・スイミー



元気にあいさつ つながる笑顔 大切にしています



スタッフ間の感謝メッセージ





ご報告

島大病院ニュース 2022年1月

ワークライフバランス週間

応募作品の表彰式を行いました

ワークライフバランス支援室

当院のワークライフバランス支援室は、「ワークライフバランス週間」の啓発活動の一環として例年実施している「WLB 川柳」及び「WLB 実践例」の募集を今年も行いました。多数の応募の中から優秀作品等を選出し、12月15日に「WLB 週間応募作品表彰式」を開催しました。当日は椎名病院長をはじめ、各副病院長及び病院長補佐、総勢19名の受賞者等が参加し、例年以上に賑やかに行われました。



今回は、「大谷翔平選手」、「東京オリンピック」等の昨年の出来事を想起させる作品が多く寄せられる一方で、「新型コロナウイルス」に関する作品も一昨年同様見受けられました。

コロナ禍が始まってから早2年、これまでとは異なる新たな形でのワークライフバランスが求められています。今後も本支援室では引き続き職員の「仕事と生活の調和」の実現のための支援に取り組んでいきたいと思っております。

<WLB川柳優秀作品一覧>

・椎名病院長賞	● ハッシュタグ 夫の育児を 拡散中	ゆづママさん
・鬼形医学部長賞	● 目標です 仕事と家事の 二刀流	ブースカママさん
・田邊副病院長賞	● 懐かしく 振り返るのみ 忘年会	OP Dogさん
・村川副病院長賞	● 育メンは 名もなき家事が できたらば	BIGBOSSさん
・田島副病院長賞	● コロナ禍で 踏ん張るみんなに 金メダル	牛娘さん
・竹谷副病院長賞	● 帰路につく 母の顔へ ギアチェンジ	ゆいこさん
・藤谷病院長補佐賞	● 朝誓う 定時退勤 ゴン攻めで	たまさん
・渡部病院長補佐賞	● 仕事して 家では家事の 二刀流	カゾクスキーさん
・玉置病院長補佐賞	● 読み聞かせ 読んでる自分が 先に寝て	マキマキさん
・大野病院長補佐・河村病院長補佐賞	● 残業を 減らす会議が 時間外	よみ人しらずさん
・福田病院長補佐賞	● 子ども連れ 公園行って 母疲労	2児の母さん
・矢野病院長補佐賞	● 仕事と家事 子育て含めて 三刀流	匿名希望さん
・金崎病院長補佐賞	● 単身の 心揺さぶる コロナ風	JAL-20190315さん
・佐倉病院長補佐賞	● コロナ前 戻れと願う したっばら	神在月のババアさん
・和田病院長補佐賞	● やめられない チョコと残業 依存症	ママ2年生さん
・長井病院長補佐賞	● ワークシェア 夫のセンスに 期待する	食欲の秋さん
・直良病院長補佐賞	● 定時あがり 妻から指示ありGO TO 迎え	子煩悩ババさん
・安友事務部長賞	● 帰りましょう 皆で協力 ノー残業	A6さん

<WLB実践例 好実践例>

- ・ワークライフバランス支援室長賞 ● 業務中は病棟内で協力し合い、時短・常勤者ともに定時終了を目指している A病棟6階



2022年1月 発行
 編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
 問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
 TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
 ◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



お知らせ

島大病院ニュース 2022年1月

アレルギーの最新治療に関する市民公開講座を行います！

アレルギーセンター センター長 たけたに たけし 竹谷 健

アトピー性皮膚炎やじんましん、気管支ぜん息、アレルギー性鼻炎でお悩みの方はおられますか？新しい治療がどんどん出てきて、治療が劇的に進歩しています。そこで、最新のアレルギー治療をお伝えして必要な方に適切な治療を提供させていただくために、市民公開講座を開催することとなりました。奮ってご参加頂ければ幸いです。

ここまで進んだ、アレルギー疾患最新治療

日時 2022年 2月20日(日) 14:00~15:30 (13:30~開場) **参加無料**

場所 島根大学医学部 出雲キャンパス 臨床講義棟2階 臨床大講堂

※お申込みは不要ですが、当日受付にてお名前とご連絡先をご記載いただけます。また、マスク着用、手指消毒、体温測定など感染対策にご協力ください。

講座内容



皮膚科
准教授
千貫 祐子

「ここまで進んだ、アトピー性皮膚炎・じんましの最新治療」

アトピー性皮膚炎やじんましんは、皮膚の炎症や痒みによって、しばしば生活の質を損ねる疾患です。最近では、画期的な内服薬や注射薬が保険適用となり、これまでなかなか病勢のコントロールができなかった重症患者さんも、良好な経過を得ています。アトピー性皮膚炎・じんましの最新治療をご紹介します。



呼吸器・化学療法内科
教授
磯部 威

「わかりやすい喘息(ぜんそく)の話」

気管支喘息の患者数が増加しています。有効かつ手軽な吸入薬を日々用いることで、症状のコントロールは向上しています。患者さんご自身が喘息の原因、検査、治療を理解することで日常生活に支障のない状態にすることが可能です。喘息のプロフェッショナルをめざしましょう！



耳鼻咽喉科・頭頸部外科
教授
坂本 達則

「アレルギー性鼻炎の困った症状、何とかなるかもしれませんよ！」

くしゃみ、鼻水、鼻づまり。アレルギー性鼻炎・花粉症の困った症状ですが、最近のお薬はずいぶん良くなりました。特に治りにくい患者さんには手術も良いかもしれません。鼻のことやアレルギーを知って、かしく乗り切りましょう。

問合せ先 医療サービス課 事務担当 TEL: 0853-20-2067



2022年1月 発行
 編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
 問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
 TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
 ◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





お知らせ



看護師特定行為研修

2022年度受講生募集開始のご案内

看護師特定行為研修管理委員会 委員長
看護部長

むらかわ ようこ
村川 洋子
たなか まなみ
田中 真美

当院では、看護師の特定行為研修指定機関として、2020年度より研修を開講しています。この度、2022年度受講生の募集を開始しましたのでご案内いたします。

特定行為を実施できる看護師の育成により、医学的視点と看護の視点の両面から判断を行い医師の指示の下、手順書による特定行為を行うことが可能となり患者さんに対してタイムリーなケア提供を行うことができます。

当院の特定行為研修は、「創傷管理関連」「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」「循環動態に係る薬剤投与関連」の4区分です。病態の緊急度ならびに重症度が高い患者さんに対して、早期介入により重症化を予防することができるとともに異常の早期発見と対処により再発や増悪のリスク軽減を図り、患者さん・ご家族が在宅での療養を安心して継続できるように、急性期医療から地域における在宅医療まで質の高い医療を提供する人材を育成していきたいと考えています。

院内にシミュレーターの充実したクリニカルスキルアップセンターを備えており、指導医等による丁寧で熱心な指導のもと、安全で安心な医療を実践するために確実な技術を習得することができる教育体制・環境にあります。

院内外問わず多くの看護職の方の応募をお待ちしています。

詳しくは裏面をご確認ください。

問合せ先 総務課企画調査係（看護師特定行為研修担当） TEL:0853-20-2019

裏面あり

